

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習 I-2		必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥 他	C308	t.enokida	木曜日 10:30~13:00		
授業の目的・概要	作業療法演習 I-2 では見学実習や専門基礎科目、作業療法演習 I-1 で学んだ知識や技能をもとに、各領域の評価測定を正しく実施できることを目標とする。授業は原則、面接授業で実施する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	この授業では見学実習や作業療法演習 I-1 で学んだ知識が必要となるため、授業で配布されたプリント・教科書を復習しておくことが望ましい。				
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版/編：能登 真一、山口 昇、玉垣 努、他 / 医学書院				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	作業療法士として必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。			HSU(2)(4)(5)、OT(1)(2)(3)	
②	基本的な検査測定が実施できる。			HSU(2)、OT(2)(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション OSCE について	講義・演習	事後：配布資料を復習する 後期の学習計画の立案	1	
2	コミュニケーションスキルについて学ぶ	講義・演習	事前：教科書の概要を読む 事後：学習資料・教科書の復習	1	
3	喀痰吸引、リスク管理の基本解説	講義・演習	事前：資料を読む 事後：学習資料・教科書の復習	1	
4	<実技実習> ・8グループ程に編成する。 ・各グループはその週の担当指導教員から提示された実技課題に取り組む。 <実技課題> MMT (主要筋)、HDS-R、喀痰吸引、ROM (主要関節)、 リスク管理 (介助・禁忌肢位)、ISDA、SMSF など	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	3	
5					
6					
7	前半課題のまとめ	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	3	
9	<実技実習> ・8グループ程に編成する。 ・各グループはその週の担当指導教員から提示された実技課題に取り組む。 <実技課題> MMT (主要筋)、HDS-R、喀痰吸引、ROM (主要関節)、 リスク管理 (介助・禁忌肢位)、ISDA、SMSF など	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	3	
10					
11					
12	後半課題のまとめ	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	3	
14	OSCE (客観的臨床能力試験) 1回目	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	3	
15	OSCE (客観的臨床能力試験) 2回目	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	3	

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	14.15 回目に OSCE を実施する。一般課題・専門技能課題のチェック項目の総合得点で評価を行う。合格水準に達しない場合は再試験対象とする。				OSCE 試験後に試験担当教員がフィードバックを行う。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	志茂聡、小沢健一、幸信歩、浅野克俊、岡猛、小川麻里子、渡辺俊太郎、海保享代						
教員の実務経験	担当教員は5年以上の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	配布資料と併せて、臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的知識を適宜教授する。						
そ の 他	授業形態： この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 履修に関して： この科目の単位修得が作業療法演習 I-2 の履修要件になる。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など、社会情勢等によって再度シラバスの変更もあり得る。						